

「今だからこそ・・・」 10

「秋深し となりは何をする人ぞ」

コロナ禍、誰にとってもこの秋ほど人恋しいことは、なかったかもしれない・・・

「人に逢ってはいけない。

喋ってはいけない。

家でジッとしていなさい。」

と、春先からずっと言われ続けて来たのだから。

ヒューマンドキュメンタリーを旗印に、映画を創り続けてきた我がいせフィルムは、人との出逢いをベースに映画を創り上映してきたので、「もう看板を降ろして、店を閉めなさい。」と言われていたようなものだ、と思っている。

世間からウシロユビを指されながら仕事をしている感がある・・・

それでも、映画創りを止めない！ 観せることを止めない！！ 負けてたまるか！！！！ という屁の突っ張りなんだ・・・ クソ！！！！

連日、事務所に足を運び「上映してほしい」というお願いの手紙を書く。私はパソコンが苦手なので、手書きで。これまで上映してくれた全国各地の一人ひとりに、声をかけまくっている。一人ひとりの顔を想い浮かべながら・・・

今の状況を冷静に思えば無駄な抵抗だと思ふかもしれないが、訳知り顔に状況分析して収まっている諸氏のようにワケがワカッていないし、心の余裕も金の余裕も無いのだ。必死にあがくしかないのだ。

どんなにみっともなくとも、やり続けるのだ。あがくのだ・・・

春に毎日映画コンクールを受賞した『えんとこの歌』がこの秋、文化庁映画賞も受賞することになった・・・嬉しい。

数年前ノーベル賞を受賞した高名な小説家のように、国がらみの賞は拒否する、というほど気骨(?)があるわけではない。もらえるものはもらうんだ・・・ 文句あるか？

「日本学術会議」の6人の任命拒否には俺だって大いに文句あるけどさ・・・

上映を応援してくれているお寺の住職に、「今だからこそ『えんとこの歌』を観てもらいたいです・・・」と電話したら、「確かに。今はすべての人が“えんとこ状態”のようなもので家から一步も出れずに、痛みを抱えているようなものですからね。だからこそですよ。遠藤さんが、自分の足で歩くことをあきらめなかった35年を思えば、たった半年か一年、ステイホームしただけであきらめるわけにはいかないですよ。上映、考えてみます・・・」と、言ってくれた。

人と人との出逢い「寄り合い」ながら生きること。「いのち」を生かし合うこと。

「人間の重み、深み、怖さ、恐さ、よろこび、すべてを垣間見せてくれる作品でした。」

9月にミニシアターで『えんとこの歌』を観た21歳の若者の感想です。

日本中、世界中の人々に、今、観てもらいたい・・・とマジに思ってる。押し戻さなくては・・・

伊勢 真一